

# 「植木の東金」を支えるまち

江戸時代の新田開発で、このあたりの原野は、広大な農地へと生まれ変わりました。ここで暮らしていた私たちの先祖は、稲作に励む一方、風流を愛で、学問に親しむ心も養ってきたと思われまます。善導寺には俳句の碑が並び、植松是勝の和算塾もこの地にあります。伝統文化の幸田獅子舞も、絶えることなくしっかりと受け継がれています。

## 正気 MASAKI

今、正気を歩くと目に飛び込んでくるのは、濃い緑と見事な枝振りの植木。ここは「植木の東金」を支える地区となっています。まちのいたるところに植木畑があり、どの家の庭先にも花木が見られ、目を飽かさせることがあります。広大な農地の一部は、市民スポーツの拠点となる家徳スポーツ広場や、文化都市の暮らしを支える下水道施設などへと再び生まれ変わっています。



### 江戸時代の塚崎新田開発

江戸時代、家徳や広瀬には広い原野が残っていました。当時の農民は年貢米を納めるため、耕地を広げ米を増産する必要がありました。とくに新田開発が盛んに行われたのは、八代將軍吉宗の時代です。東金地方に500町歩の原野があることを知った江戸の商人・家徳忠張は、北塚崎(家徳)を12年かけて開発。その内、200町歩をゆずり受けた広瀬伝三郎は、南塚崎(広瀬)を肥沃な農地に変えました。広瀬にある稲生神社には、五代広瀬兼直が慶応3年(1867)に「田畑見之塚」を建て、「伝えおくころは花の折々も 業怠らで田畑見乃塚」と先祖の苦勞をたたえる和歌を刻んでいます。



### 2 大木丹二の墓

The grave of Tanji Oki



大木丹二は、上総道学を東金地方に広めた稲葉黙齋の弟子で、北幸谷村の村名主をつとめた人物です。学識の高さと人間的な魅力に優れ、師から孤松庵の建物を譲り受けました。それを移築して講義所とし、子弟の教授を続けました。丹二は文政10年(1827)に63歳で亡くなり、北幸谷の大木家墓地に葬られました。墓碑には上総道学の同門・山田華陽齋の碑文が彫られています。

### 3 植松是勝の数学書(全市指定古文書)

Mathematics paper of Zesho Uematsu

植松是勝(1790~1862)は、故郷宿村の自宅に約40年間塾を開き、関流和算を教授しました。和算とは日本古来の数学で、関孝和を祖とするのが関流和算です。是勝は22歳で免許を受け関流7世となり、地域文化の発展に力を尽くしてきました。是勝が用いた数学書は、塾をやめた後に散逸し80冊ほどしか残っていませんが、子孫の植松家で大事に保管されています。また、東京の浅草寺には、安政5年(1858)に門人たちによって建てられた「五瀬植松是勝先生明数碑」があります。



### The garden spot of Togane

With the development of new rice fields in the Edo Period, the local fields were turned into a sprawling agricultural zone. While our ancestors were busy with rice production, they were also fond of scholarly pursuits. At Zendoji Temple there is a line of haiku monuments, and at one time Zesho Uematsu's mathematics school was here. One of the most lasting traditions of the area is the Koda Shishimai.

The most striking thing about Masaki is its deep greenery and wonderful gardens, including the cultivation of potted plants. In this expansive agricultural area there is the Katoku sports plaza, a focus of citizens' athletic activities, and work is progressing on the construction of modern water and sewer



### 勇壮な幸田獅子舞

(市指定無形民俗文化財)

10月下旬の日曜日、腹に太鼓をつけた雄獅子・雌獅子・子獅子が三人一組となり、刀などを持って舞う獅子舞です。舞にはシャラブ・辻切り・宮参り・振り込みなどの型があります。本光寺、八幡神社、熊野神社、水神社の前で奉納されるほか、地区内の各家を回り、村境では「辻切り」を行います。この獅子舞の起源は不明ですが、江戸中期の享保年間(1716~1735)、徳川家康ゆかりの朱塗りの幸田橋がかかれたときには、村人が獅子舞を盛大に演じて祝ったと伝えられています。

